

第3回当別町地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：平成20年5月29日 13:00～

場所：当別町役場第二庁舎 会議室

出席委員 18名(内代理1名)、欠席委員 5名、オブザーバー 1名(代理)、傍聴人 0名

1 開会 (司会：増輪事務局長)

2 会長挨拶 (近藤会長)

平成18年度から実証運行を開始しているコミバスも、4月1日から3年目を向かえた。委員の認証を得られた事業項目に基づき、本年度から新たに運行を行っている予約型深夜バス、SuiSui ふれバも好調なスタートをきっているところである。しかし、国からの補助金が満額決定とならなかった(3割減)ことから、事業計画の変更、および予算の補正などが必要となった次第である。また、年度の更新に伴う、人事異動や役員改選などによる委員の変更があるので、新委員の方々への委嘱状交付を行いたい。以上、本日も慎重な議論が行われることを期待する。

3 委員委嘱状の交付 (近藤会長)

- ・小林篤委員(北海道運輸局札幌運輸支局主席運輸企画専門官) 代理の鈴木専門官が受諾
- ・鈴木伸二委員(札幌開発建設部札幌道路事務所第2維持課長) 欠席
- ・久保聖章委員(JR石狩当別駅長)
- ・小林万代委員(当別女性団体連絡協議会幹事)
- ・五十嵐廣子委員(当別町ボランティア連絡協議会会長)
- ・見上由紀雄委員(当別町商工会事務局長)

4 副会長の指名

協議会要綱第4条第2項により、会長の指名による副会長の任命を行う。会長より、北海道運輸局札幌運輸支局の小林主席運輸企画専門官が指名された。

小林委員は欠席であったが、内諾を得ているため、副会長が決定した。

5 報告 (事務局)

(1) 当別町地域公共子通総合連携計画(資料1-1、1-2)

新法策定から早い段階での連携計画提出であり、全国的な連携計画のモデルケースとなることから、国土交通省より指導を受け、第2部を修正することとなった。これは、部分的な構成・標記の変更であり、内容についての変更はないが、連携計画に基づく事業を実施する「実施主体」の明記が追記されている。基本的に当別町と乗合バス事業者が事業を実施し、コミュニティバス実証運行、本格運行に関しては当別町・北海道医療大学・北洋交易・とうべつ整形外科・乗合バス事業者が実施主体となる。以上、変更前後の内容を併記したものを資料1-2にまとめる。

(2) 当別町地域公共交通活性化・再生総合事業計画の認定について(資料2)

4月1日付けで、本事業計画が認定された。

(3) 平成20年度地域公共交通活性化・再生総合事業費補助金の交付決定について

(資料3-1、3-2)

本事業計画のもとに申請した補助金は、満額決定とはならず、30%減ということで決定した(資料3-1)。これに伴い事業計画や予算、スケジュールの組みなおしが必要となり、詳細については「6 議事」において述べる。なお、簡単なイメージを資料3-2に示す。

質疑

(1)~(3)の報告に関して、質疑はなし。

(4) 平成19年度当別町コミバス運行事業報告(資料4)

平成19年4月1日~平成20年3月31日の運行期間(元旦のみ運休)における乗車人数は130,301人であった。また、利用の低迷していた「ゆとろ線」の廃止や、「お買い物ふれバ」の新規運行、市街地循環線の路線延長などを行った。乗車人数はH18年が135,407人であったのに比べ、5,106人の減少となったが、これは運行便数の減少(420便の減少、平成18年度25,141便に対して平成19年度24,721便)に伴うものと考えられる。

応援券販売については、1,115枚(4,627,000円)であり、平成18年度の1,831枚(4,867,400円)に比べ716枚の減少となったが、これは応援券の金額が高くなったことによるものと考えられる。そのため、枚数の減少に対して金額の減少割合は少ない。

収入実績については、応援券の収入は減収したものの、運賃および回数券における増収により、運行収入は9,752,000円となった(1,347,710円の増収)。また、道からの補助金5,000,000円により、事業者負担金が25,422,243円に納まっている(7,221,375円の減額、平成18年度32,643,618円)。これに国の補助金10,000,000円を加えた収入は50,174,243円であり、平成18年度の51,047,908円に比べ873,665円の減収となったが、これは運行路線の合理化と下段モータースのBDFによる運行が大きく影響していると考えられる。

質疑

(4)の報告について、質疑はなし。

6 議事 (事務局)

(1) 平成20年度事業計画の変更について(資料5-1、5-2)

補助金が申請額3,600円に対し、約1,000万円減額の2,520万円で交付されたことに伴い、平成20年度の事業計画を変更する。主な変更点は下記6点。

バス停留所整備の延期

整備費用が高額であり、また緊急性が低いため見送る。

車内アナウンスシステムのモニター連動の取りやめ

アナウンスシステムと連動したモニターへの情報提示（広告と次停留所の併記）は、整備費用が高額であるため見送るが、次年度に向けて連動できるシステムを探る。

公共交通情報提供システムの設置箇所を2箇所から1箇所へ

今年度は、当別駅南口（屋外）とふれあい倉庫（屋内）のいずれか1箇所を予定。来年度以降も継続して設置する予定。

大学生向けモビリティ・マネジメントの延期

新入生（北海道医療大学）を対象とする以上、年度初めに実施するべきであるが、現在バスマップ等のツールが揃っていないため、本年度は来年度に向けた準備期間として位置づける。

小中学生向けモビリティ・マネジメントの実施内容変更

本年度は、来年度以降の実施に向けたツール等の準備を行う。なお、試験的に取り入れてもらえる学校があれば、授業を実施する。

ラッピングバスの内容変更

整備費用が高額であるため見送る。代替案として、マグネットシート等を用いたイラストを車体に掲示するなど、安価な案を検討する。また、感謝ツアーの平成18年度の実績費用、及びラッピングバスの費用概算の記載削除、OD調査対象地域の変更（町内全域：平成18年度の調査実施区域除外を取りやめる）を行った。

（2）平成20年度予算の変更について（資料6）

補助金減額により、収入合計額は6,200万円となった。これに伴う支出（予算）の変更の主な点は下記の通り。

バス停設置やラッピングバスの見送りに伴う工事費0計上

事業費内運行事業費の工事費を一部減額

事業費内需用費等の、総務費内需用費等への転換（1対1ではない）

事業費内委託費等の減額

以上に加え、その他の細かな変更により、支出（予算）額は7,343万円から6,200万円に減額となった。

質疑

質問：滝本隆志委員（当別町建設水道部長）

）削除された事業についての、来年度以降の取り扱いについて伺いたい。

）資料6紙面左下の「欠損額」とはどのように解釈すればよいのか。

回答：増輪事務局長

）これらは「廃止」ではなく「見送り」であって、来年度以降の予算の中で取り組んでいくものである。

）運行経費に対して、運賃収入や広告料で賄えない分を「欠損額」と表記した。事業者負担金を基に協議会として補填する。

質問：鈴木充生委員（北海道運輸局札幌支局小林篤委員代理）

資料5-2、p.6において、感謝ツアーの金額を削除しているのはなぜか。

回答：増輪部長

これは実績費用でしかなく、また他の項目において金額提示がないこととの表記上のバランスをとるためである。

以上の質疑を以って、**(1) 事業計画の変更**、**(2) 予算の変更** が決定。

なお、「状況報告書」などの関係書類の提出による変更内容確認が行われる予定であり、これを事務局に一任することに決定。

(3) 平成20年度事業実施スケジュールについて（資料7）

以降の本年度協議会は10月、1月、3月の計3回を予定している。実証運行（事業実施）についてのスケジュールは弾力的なものである点を理解いただきたい。また、来年度以降の協議会は4月に第1回を開催し、継続的な事業推進を行う。

質疑

(3)の議事について、特に質問はなし。以上、**(3) 実施スケジュール** が決定。なお、弾力的な事業遂行にあたっては、事務局に一任することに決定。

7 その他

(1) 鈴木充生委員（北海道運輸局札幌支局小林篤委員代理）

見送りとなった事業については、来年度以降の予算に併せて実施していきたいと考えるが、長期に渡って補助を受け続けるわけにもいかないものであり、ランニングコスト等を検討しながら、本運行を目指していただきたい。

(2) 事務局（増輪部長）

次回協議会は10月中旬を予定しているので、ご協力願いたい。また、資料として添付した平成19年度当別町コミュニティバス実証運行事業報告書を一読いただきたい。

8 閉会（近藤会長）